

活動報告書

記載者: 篠原 瞳

I. 活動区分

医療者向け研修支援

II. 企画概要

1. 企画名

令和3年度第1回愛媛県がん相談員研修会

2. 主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

3. 目的

積極的治療の限界を告げられた患者とその家族の全体像を的確にとらえ多角的な支援について学ぶ

これらの学びを明日からの支援に活かす

4. 日時

令和3年10月23日(土)13:00～16:50(入室12:10～12:50)

5. 対象

がん診療連携拠点・推進病院のがん相談支援センター相談員

がん相談に従事する相談員(医師、看護師、MSW、心理士等)

6. 場所

Zoomを用いたオンライン研修

(発信ホスト会場)四国がんセンター 患者・家族総合支援センター3階

7. 内容

〈学習目標〉

1. 積極的治療の限界が伝えられた患者とその家族の全体像を理解、アセスメントができ、必要な支援を考える
2. グループワークでより良い相談支援を行うために、日頃の相談支援を振り返り、気づきを得ることができる。

1) オリエンテーション、スタッフ紹介

2) アイスブレイク

3) 講義①「がん相談支援場面で患者・家族を理解する視点」

愛媛大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 塩見美幸氏

講義②「積極的治療が限界になった時の患者・家族への支援

愛媛県立中央病院 がん看護専門看護師 武田千津氏

4) グループディスカッション:

- ① からだ・こころ・くらしの観点から全体像を捉え、対象者の課題を挙げる。
- ② 対象者の全体像、課題を見直し、必要な支援を考える。日頃の相談支援の振り返りを行う。
 - ・グループディスカッション①と②で検討する事項を明確にし、各職種における多角的視点から意見交換できるようファシリテーションした。
 - ・各グループにファシリテーターのサポートとしてサブファシリテーターを配置した。
 - ・司会進行はファシリテーターが行い、発表者、タイムキーパー、書記はグループメンバーから選出した。書記はサブファシリテーターが担っても良いこととした。
 - ・ファシリテーターやサブファシリテーターは、発表者の発言の補足や、全体共有での質疑応答がない場合に積極的に質問や意見を述べる。
- 5) 全体共有:各グループ発表と質疑応答
 - ・各グループにおいてからだ、こころ、くらしの観点から対象者の全体像を話し合った。「家庭や仕事を頑張り続けてきた人」、「家族に迷惑をかけずにストレングスのある人」等の意見が上がった。
 - ・課題、支援策としてとして、病状の認識、家族とのコミュニケーション、経済的問題、仕事、制度の情報提供など多くの意見がでたが、まずは治療を長年続けてきた労いの言葉や共感の言葉がけをすることで信頼関係を構築し、本人や家族の意向を言語化することで残された時間の過ごし方を確認していく等の意見があがった。また1度のみの支援ではなく、継続的支援が重要であることを共有した。
 - ・多職種でかかわることで、多角的視点から支援ができる。アセスメントを深めることでより対象者の全体像を把握し、今この場ですべき支援と、もう少し先に行う支援、誰が行ったらよい支援なのかなど整理できると良いとの意見もあった。
 - ・本人と家族の病状認識のギャップから個別の面談を設定することの提案もあがった。
- 6) 振り返り:各グループで日頃の相談支援を振り返った。
- 7) アンケート調査:WEBにて実施。研修会の2日後までに入力を依頼し、参加者21名(回答率100%)回収できた。

Ⅲ. ワーキングの振り返り会

1. 運営について

- ・当日1名欠席あり。連絡先の電話番号に電話するが、職場の電話番号であった為、連絡つかず。その後、当日メールで欠席連絡があったことが判明した。急遽グループメンバーの変更をした。
- ・メインホストのPCネットワークが落ちた為、急遽別の共同ホストPCを利用した。(回線の早い外部ネットワークと分配器使用をしていた。原因不明)
- ・運営のミスにより、進行中に全員がメインルームからアウトブレイクルームに移動する事態

があった。

・終了時刻 16 時 50 分までの予定だったが、オリエンテーション、講義、全体共有各々で少しずつ超過し、17 時 15 分までの延長となった。受講者には超過する旨声がけを行い了承を得ていた為、全受講者最後まで受講した。

2. グループディスカッションについて

・支援について、今できる支援に焦点がいき、長期的支援、支援の優先順位についての話し合いができなかった。

⇒「講義②を聞いて新しく気が付いたことはありましたか」などファシリから言葉かけをすると議論が深まる場合がある。

・各グループに看護師、MSW、心理士の多職種でメンバー構成できたため、多角的視点からお互いに気づきを与える話し合いができた。

・記録について、発表の際には記録があった方が整理もでき、皆に伝わりやすいとの意見あり。

・記録者は記録に追われてしまう点でグループディスカッションに十分な参加が難しいと思われたが、逆に記録をとりながらの方が整理できるという受講者もいた。

・記録者(受講者)が職種の強みも引き出しつつ、共有しながら記録した。記録者(受講者)の力量や記録の仕方もディスカッションの流れに大きく影響すると思われる。

・サブファシリテーターが記録をした場合、言語化やアセスメント、課題等の表現をサブファシリテーターがリードして行ってしまうことになるがそれで良いのか。

⇒記録の取り方については今後検討が必要と思われる。

・グループディスカッション①で、「からだ、こころ、くらしのあてはめ作業にならない」ことにこだわりすぎてしまい、アセスメントを深めるような話し合いができていなかった。

⇒各職種の強みを引き出すようにしてみてもどうか。

・グループメンバーを変更したグループもあったが特に問題なく、スムーズにグループディスカッションに移ることができた。

・今回、愛媛県ではオンライン初となるグループディスカッションを含む研修会であり、ファシリテーターの負担が大きかった。⇒次回はファシリテーターが困ったときに参考になる文言などをもう少し具体的に入れ込んだファシリテーターマニュアルを作成する。

・県外の参加者もなごみムードで居心地よく参加してくれていた印象である。

・タブレットの参加者がおり、記録の入力ができないとのことだった。

・たまたまがん化学療法認定看護師2名を含むグループあり。メンバーの感性が良かった為、有意義な話し合いができた。

IV. アンケート調査集計 ※添付資料参照

1. 参加者背景

・県内 57.1%、県外 42.9%

・看護師 28.1%、MSW47.6%、臨床心理士 19%、精神保健福祉士 9.5%

- ・認定がん専門相談員 28.6%
- ・参加理由として「テーマに興味があった」が 95.2%で最も多く、「自己研鑽」85.7%、「職務上必要と感じた」が 61.9%「認定がん専門相談員の認定取得」57.1%だった。

2. 研修目的の理解・満足度

- ・講義①「がん相談支援場面で患者・家族を理解する視点」の理解度
「とても理解できた」52.4%、「理解できた」47.6%
- ・講義②積極的治療が限界になった時の患者・家族への支援
「とても理解できた」52.4%、「理解できた」47.6%
- ・本日の研修内容の満足度について
「大変満足した」66.7%、「満足した」33.3%

3. 今後の取り上げてほしい研修テーマ

- ・意思決定支援
- ・がん相談支援のプロセス
- ・AYA 世代の支援
- ・生活困窮者の支援

V. 今後の展望

今年度 1 回の研修会は「積極的治療の限界を告げられたがん患者・家族の支援」をテーマに、愛媛県では初めてのオンライン研修での事例検討、グループディスカッションを含めた研修会を行った。

県外からも数多く参加していただき、オンライン研修ならではの他県相談員との交流も深めつつ、活発な意見交換を行うことができた。また今回の研修では心理士の参加が多く、看護師、MSW を含めた多職種の視点から各職種の強みを生かした支援方法を検討していくことができた。

今回の研修でオンライン研修会のメリット、デメリット、運営やグループディスカッションにおける記録等課題も挙がった。来年度、オンライン研修になるか集合研修になるかは未定だが、課題における改善策を検討し、がん相談員の質向上を目指したより有意義な研修会を実施していきたい。